百々よみとりおけいこ③（低）　ねん　くみ　名まえ（　　）

やきものがどうやってできるのかおはなしましょう。

まず、ねん土を手でよくもみ、くうきをぬきます。なぜかというと、やくときにくうきがふくまれていると、くうきがねつででふくらみ、やきものがわれてしまうからです。

次にロクロでかたちをつくります。そうしてよぶんなところをけずります。

それをよくかわかしてからかまにいれ、約八百どほどのおんどで素焼（すや）きをします。

次に下えつけをします。ふでででえをかきますが、えのぐとちがって、ぬるときの色と、やきあげたときの色はぜんぜんちがうのではじめは少しとまどうそうです。

そしてうわぐすりをかけて本焼（ほんや）きします。素焼（すや）きのときよりもたかいおんどでやきます。さらに上えつけをしていごにやいてやっとできあがります。

さくひんによってちがうのですが、とても手まがかかることはたしかです。

そして、こんなに手まがかかるのに、すべてがうまくしあがるわけではないのです。われてしまうことも、ゆがんでできあがることもあります。

自分にきびしい作家（さっか）さんの中にはそのようなさくひんをどんどんわってしまう人もいます。でも、しょく人さんの中には、少しゆがんでいてもいい、ちょこっとやき上がりにむらがあってもいい、というおきゃくさんのためにまつりのときまでとっておき、安いねだんをつけて売る、ということもあります。

いずれにせよ、ものづくりに心をこめておられるわけです。おんどくサイン→

①なにについてのはなしでしょう？
（　　）

②まずねん土をもむわけはなんでしょう？
（　　）

③かたちをつくるときのどうぐは？
（　）どくろ（　）ざくろ（　）ろくろ

④素焼きのときのおんどはどのくらいでしょう？
（　　）

⑤えつけの色について、えのぐとのちがいは？
（　　）

⑥やきもののひょうめんをぴかぴかにするためにかけるものは？
（　）水　（　）うわぐすり　（　）おさけ

⑦やきものをつくる人はものづくりになにをこめていますか？
ものづくりに（　　）をこめている。

⑧自分の作品をわる作家さんはどんなきもちかそうぞうしてかいてみましょう。
（　　）

⑨あっているものに○をつけましょう。
（　）ねん土はよくもんでからつかう。
（　）ろくろっくびがろくろをはつめいした。
（　）かんぺきなものいがいはぜんぶわる。

⑩おもったことを五行でまとめましょう。

できばえは？

百々読みとりおけいこ③（中）　年　　組　　名前（　　）

焼き物がどのようにしてできるのかお話しましょう。

まず、粘土を両手でよくもみ、空気をぬきます。なぜかというと、焼くときに空気がふくまれていると、空気が熱でふくらんで、焼き物がわれてしまうからです。

次にロクロで成形します。作りたいものの形を作るのです。そうして余分なところをけずります。

それをよく乾燥させてから窯にいれ、約八百度ほどの温度で素焼きをします。

次に下絵付けをします。筆で美しく絵を描きますが、えのぐとちがって、筆でぬる時の色と、焼き上げた時の色はぜんぜんちがうのではじめは少しとまどうそうです。

そして釉をかけて本焼きします。素焼きの時よりも高い温度で焼きます。

さらに上絵付をしてさいごの焼きで、やっと完成です。

作品によってこの工程はちがうのですが、とても手まがかかることはたしかです。

そして、こんなに手間がかかるのに、すべてがうまくしあがるわけではないのです。火のあたり方や釉のかかり方で、われてしまうことや、ゆがんでしまうこともあります。しなものとしてうれないものもあるわけです。

自分にきびしい作家さんの中にはそのような作品をどんどんわってしまう人もいます。でも、しょく人さんの中には、少しゆがんでいてもいい、ちょこっとやき上がりにむらがあってもいい、というお客さんのためにまつりのときまでとっておき、安いねだんをつけて売る、という場合もあります。

いずれにせよ、ものづくりに心をこめておられるわけです。音読サイン→

①なんの話でしょう？
（　　）

②土もみが必要なわけはなんでしょう？
（　　）

③成形につかう道具で回転するものは？
（　）どくろ（　）ざくろ（　）ろくろ

④素焼きの時の温度はどのくらいでしょう？
（　　）

⑤絵付けの色について、えのぐとのちがいは？
（　　）

⑥焼き物の表面を美しくするためにかけるものは？
（　）水　（　）釉　（　）おさけ

⑦作家さんとしょく人さんの共通点をなんとまとめていますか？
ものづくりに（　　）

⑧自分の作品をわる作家さんはどんな気持ちかそうぞうしてかいてみましょう。
（　　）

⑨あっているものに○をつけましょう。
（　）ねん土はよくもんでからつかう。
（　）ろくろっ首がろくろを発明した。
（　）かんぺきなものいがいはぜんぶわる。

⑩上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？

百々読み取りおけいこ③（高）　年　組　名前（　　）

焼き物がどのようにしてできるのかお話しましょう。

まず、粘土を両手でよくもみ、空気をぬきます。なぜかというと、焼くときに空気がふくまれていると、空気が熱でふくらんで、焼き物がわれてしまうからです。

次にロクロで成形します。作りたいものの形を作るのです。そうして余分なところをけずります。

それをよく乾燥させてから窯にいれ、約八百度ほどの温度で素焼きをします。

次に下絵付けをします。筆で美しく絵を描きますが、絵の具と違って、筆で塗る時の色と、焼き上げた時の色は全然違うのではじめは少しとまどうそうです。

そして釉（うわぐすり）をかけて本焼きします。素焼きの時よりも高い温度で焼きます。

さらに上絵付けをして最後の焼きで、やっと完成です。

作品によってこの工程は違うのでいちがいに言えませんが、とても手間がかかることは確かです。

そして、こんなに手間がかかるのに、すばらしい出来栄えのものが百パーセントというわけではないのです。炎の当たり方や釉のかかり方で、割れてしまうことや、ゆがんでしまうこともあります。商品として売れないものもあるわけです。

自分に厳しい作家さんの中にはそのような作品をどんどん割ってしまう人もいます。でも、職人さんの中には、少しゆがんでいてもいい、ちょこっと焼き上がりにむらがあってもいい、というお客さんのために祭のときまでとっておき、安い値段をつけて売る、という場合もあります。

いずれにせよ、ものづくりに心をこめておられるわけです。音読サイン→

①何の話でしょう？
（　　）

②土もみが必要なわけはなんでしょう？
（　　）

③成形に活やくする道具で回転するものは？
（　　）

④素焼きの時の温度はどのくらいでしょう？
（　　）

⑤絵付けの色について、絵の具とのちがいは？
（　　）

⑥焼き物の表面を美しくするためにかけるものは？
（　）水　（　）釉　（　）おさけ

⑦作家さんと職人さんの共通点をなんとまとめていますか？
（　　）

⑧自分の作品を割る作家さんはどんな気持ちか想像してかいてみましょう。
（　　）

⑨あっているものに○をつけましょう。
（　）粘土はよくもんでから使う。
（　）ろくろっ首がろくろを発明した。
（　）かんぺきなもの以外すべて割る。

⑩上の話の感想を五行でまとめましょう。

できばえは？